

あとがき

〈編集顧問〉

太田 保世
諏訪 邦夫
広沢 弘七郎
堀江 孝至
村山 正博

〈編集委員〉

相澤 久道
石坂 彰敏
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
三嶋 理晃

〈編集協力委員〉

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔
(五十音順)

慢性肺気腫と慢性気管支炎を包括する用語として COPD という言葉が用いられるようになって久しいが、近年になってやっと多くの一般臨床家や一般人にも認知されるようになった。COPD の発症原因として喫煙が最も重要であり、その意味では生活習慣病と位置づけられてもよいものと考えられる。WHO によると、2020 年には COPD が死亡原因の第 3 位になると推定され、患者さん本人の問題にとどまらず、社会的、経済的にも大きな損失を来すことは明らかである。COPD の予後を規定する最も大きな因子は、その急性増悪であることは周知の事実である。そこで今回の特集では“COPD の急性増悪”を取り上げ、幅広い観点から論説をお願いした。

杉浦久敏先生らは、COPD の急性増悪の定義・病態・診断を述べられたが、特に急性増悪の早期診断に関して、呼気ガス分析・呼気凝縮液・誘発喀痰法などの検査法やターゲットとなるバイオマーカーを解説して下さい。今後の早期診断法の確立が望まれる。

桂 秀樹先生は、COPD の急性増悪の影響を、予後・肺機能・QOL・医療費の観点から多面的に解説下さったが、そのうち特に医療費への影響への詳細な解説は大変参考になった。

川山智隆先生らは、COPD の原因における各種気道感染症の重要性に触れ、詳細な解説をして下さった。また、GOLD のガイドラインにおける COPD の急性増悪の二次性の原因についても言及された。

辻村周子先生らは、COPD の急性増悪の予防に関して、非薬物療法と薬物療法に分けて解説して下さい。また、現在は確立していないものの、将来的に有望な治療法に関しても言及された。

北口良晃先生らは、COPD の急性増悪期における薬物療法に関して、在宅治療、入院治療に分けて整理して下さい。また、気管支拡張薬、抗菌薬、ステロイド薬の使用法のみならず、入院治療の適応の判断基準にも言及された。

吉永 健先生は、薬物治療とともに COPD の急性増悪時の治療の柱となる呼吸管理法に関して、非侵襲的陽圧換気療法(NIPPV)と侵襲的陽圧換気療法(IPPV)に分けて、詳細な解説をして下さった。

今回の論説では触れられなかったが、COPD 患者の栄養障害は急性増悪に少なからず影響を及ぼすことが知られており、急性増悪の予防としての栄養療法の重要性が今後脚光を浴びるものと考えられる。

(石坂彰敏)

呼吸と循環 (第 55 巻 第 4 号)

2007 年 4 月 15 日発行(毎月 1 回 15 日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2007 年、年ぎめ予約購読料 31,800 円)
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 菊池・山崎)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.

• 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

ICLS<株>日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。